

向日町競輪場敷地の再整備に係る住民説明会 の開催結果概要

1 開催日時

令和7年 4月25日(金) 19時00分～20時40分(永守重信市民会館第2会議室)
4月26日(土) 18時00分～19時40分(寺戸公民館)
4月27日(日) 10時00分～11時10分(向日コミュニティセンター)
4月28日(月) 18時00分～19時20分(森本公民館)
4月30日(水) 18時00分～19時15分(鶏冠井公民館)
5月1日(木) 18時00分～19時30分(上植野公民館)
5月2日(金) 18時00分～19時35分(物集女公民館)
5月6日(火) 14時00分～15時50分(永守重信市民会館ホール)

2 参加者数

計631名

お住まい：向日市89% 京都府（向日市外）10% 京都府外1%

3 質疑回答

別紙①のとおり

4 当日アンケート

回収数：428名

年齢：20代以下1% 30代6% 40代12%
50代23% 60代24% 70代以上33% 無回答1%

自由記述：別紙②のとおり

※ 本説明会の「質疑回答」及び「当日アンケート（自由記述）」において、ご参加の皆様からいただいたご意見などで類似のものや、重複したものは、まとめて掲載しています。

質疑回答の概要

別紙①

主なご意見	京都府回答
スポーツとひととまちのコンセプトは非常に良い。遊歩道、周辺道路が整備されることを期待しており、健康増進をコンセプトに日常的なシンボルになってもらいたいと考えているが、遊歩道にそのような機能を持たせることは考えているのか。	屋内スポーツ施設だけでなく、府民の皆様に便益を提供するとともに、地域の皆様のための空間であることも非常に重要であると考えている。開かれた空間をコンセプトとして日常的にジョギングや散歩などで利用いただき、地域の皆様によかったと言ってもらえるようなアリーナにしていきたい。
競輪場も黒字で持続している。さらにアリーナができることで、子どもやその他の層の方々も向日市に来てもらえる機会となるため、賛成である。	向日町競輪場75年間の歴史の中で、一時期は赤字になったこともあり存続がどうなるのかという議論もあったが、時代が変遷する中でネットによる購入の売り上げが上がり黒字転換した。アリーナ整備を契機に、安心な地域づくり、良好なコミュニティの形成や、向日市の伝統や文化の継承、などまちづくりの観点でこれからも議論検討を重ね、アリーナが迷惑施設ではなく、皆様にとって快適で魅力的な環境や、地域の資産価値の向上などに寄与する施設になるよう、これから事業者とともに目指していく。
アリーナが整備されることで向日市が新たなまちに生まれ変わること期待しており、積極的に推進してもらいたい。	将来にわたり持続可能な競輪事業の運営を行うとともに、多用途利用に対応したアリーナを整備し、地域住民をはじめとした、府民の皆様の憩いの場、幅広い方が日常的に訪れる賑わいの拠点として地域全体の再整備を計画していく。また、競輪施設、アリーナの整備をきっかけに、スポーツや経済振興、多世代交流や、地域ブランドの向上など、向日市をはじめとする、周辺地域との協働により地域活性化につながる「まちづくり」に取り組みたい。
アリーナ建設後の税収・住民・経済効果・若者がどれくらい来るとか、こういったメリットを享受できるのか知りたい。	競輪の売上収益について、一般財源に繰り入れるとともに、一部を向日市にも交付し、優先順位に応じて、特に子どもたちのため、など様々な形でお使いいただいていた経過がある。 競輪場敷地においても、今後、黒字が続く見込みの競輪事業を継続しつつ、余剰地にアリーナ整備をさせていただこうとしているもの。スポーツの国際大会や、一流のアーティストのライブ、など夢や感動を身近に味わっていただける施設にできればと考える。 また、健康づくりや、スポーツ教室などを望む方に対しては、サブアリーナという形で、身近に使用いただけるような空間を設けたり、地域の方に身近に親しんでいただけるような空間も設けた上で、車で来場を抑制することにより、向日市で買い物や食事、特産品の購入など、経済効果にもつなげていけるのではないかと考えている。
アリーナについて、敷地境界での騒音や振動レベルがいくらになるか、数値で示してほしい。夜間は何時までイベントをするのか。競輪場にある向日町会館を残してほしい。ギャンブル依存症対策として人の動線を分けてもらいたい。地区計画の説明会は近隣の方に向けて別途行ってほしい。バスケ広場やコンビニではなく広場にしてほしい。	敷地境界における騒音は60デシベル以下、振動については55デシベル以下を目指して設計を進めている。夜間イベントの終了時間は平日で21時頃、休日で19時頃が多いと見込まれるが、夜間の人の流入にも配慮していく。 競輪場整備については、全施設が老朽化しているため一旦解体し、必要最小限の競輪施設とアリーナを含む新たな整備を行う。向日町会館は現時点で整備計画に含まれていないが、事業者の提案や市との協議を踏まえ、対応を検討する。ギャンブル依存症対策については国の方針や法制度に基づき、全国と連携して対策を進めている。 地区計画変更に関する説明会については、本説明会もその一環として実施しており、地域住民を含めて広く案内している。 広場や緑地については、南側にサブアリーナを配置することで住宅地との緩衝空間を確保するとともに、北側に人が集まる構成を取ることで騒音対策も意図している。バスケ広場はフェンスで囲みつつ多目的利用を想定し、子どもの遊び場としての活用を予定しており、コンビニエンスストアは災害時の防災拠点としての役割も含め、来訪者や地域住民の利便性を重視している。
期待と不安がある。向日町停車場線の東向日駅は開かずの踏切があり、日常的に渋滞が発生している。現状の道路形状では混乱が生じると考えており、対策をお願いしたい。	アリーナへの関係車両や来場者の対策については、徹底したソフト対策と、効果的なハード整備を実施していく。関係車両は交通混雑が比較的少ない競輪場西側に交通誘導するとともに、来場者については公共交通機関の徹底と時間・ルート分散化を図ることにより、向日町停車場線への交通集中を回避する計画である。

向日市には何もないという意見もある中で、アリーナが来ることは大変喜ばしい。道路事情もひとつひとつ課題が見えてきたおかげで、良くなっている。観光、商工、飲食も潤う。	アリーナ・競輪場の整備により、これまでと違う層の来場者が増えるのではないかと考える。競輪場の再整備にあたっては、地元の商工会、観光連盟、飲食店、各スポーツ団体など、様々な事業者から要望いただいているので、それらを踏まえて地元の活性化に資する施設にしていきたいと考えている。
競輪場整備は良い事業と考えている。全国から人が来るのであれば、宿泊施設の検討も並行して必要ではないか。	公営でのホテル計画は難しく、現時点では宿泊施設の計画はない。民間事業者から提案があるかもしれないが、経済の循環で、買い物や食事、宿泊などのきっかけになる整備にもしていきたい。
全国でアリーナ整備が進んでいるが、本件のような住宅密集地に近接した立地における整備事例はあるのか。このような立地条件も踏まえて検討しているのか。	アリーナをはじめとするスポーツ・公営競技施設は、全国各地で地域住民の理解を得ながら立地・運営されており、向日町競輪場も75年間地域と共に続けてきた歴史がある。今後は若年層やファミリー層など、新しい来場者層が増えると思われており、住民と来場者双方が安全に過ごせる配慮に加えて、騒音・振動・建物高さといった懸念点については、本提案は、西側・南側の市道拡幅や広場（緑地・遊歩道を含む）を再設定することにより、住宅地とのバッファエリア（緩衝帯）の拡充や防音効果のある施設配置など、居住環境との調和を図る開放的でオープンな空間を創出するものとして事業者の提案段階でシミュレーションが実施されており、今後の詳細設計でも検証を継続していく。現在はあくまで計画段階での説明であり、最終決定前の段階的な情報共有として説明会を実施している。引き続き事業者とともに課題の精査と対策検討を進めていく方針である。
市民のことを考えた競輪場敷地の活用をするべき。アリーナが整備されることで市民が迷惑を受けることは必至。	競輪場敷地の活用については、子どもがボールで遊べる憩いの場や良好なコミュニティーの形成にも資する場としても整備したい。周辺道路については、現状の交通量の調査・分析を踏まえ、分散化など、ハード・ソフト両面を一体的に実施検討を進めているところであり、今後も、検討を続けていきたい。
交通アクセスや市内の渋滞が心配な中、なぜアリーナを向日市に建設するのか。	京都府の屋内スポーツ施設の現状が全国と比べて非常に劣後している中で、外部有識者からなる「スポーツ施設のあり方懇話会」を設置・開催し、アリーナ整備の必要性を確認したところである。建設地については、府の事業として進めていくに当たり、新たに用地交渉し、取得をした上で、整備を行っていくことは費用面、時間面での課題がある中で、複数の府有地を比較検討し、アクセスの良さや建設費などを総合的に考え、今回、向日町競輪場敷地に整備をすることとした。なお、アリーナ整備に向け10万筆を超える署名や向日市からも要望を頂いている。交通アクセス等については、ソフト対策とハード整備に取組み、交通の分散化を図っていく。
整備地を今の競輪場敷地から変えるつもりはないのか。向日市にはほかにも交通に便がいい土地がある。	京都府の事業として府の所有地に計画するもの。今回は競輪場の余剰地にアリーナを建設するものであり、新たに用地を取得して建設するものではない。
大型開発ではなく、住民の意見を聴いて「市民の憩いの場」「低廉な価格で使える市民のための施設」にしてほしい。	敷地を囲む遊歩道やジョギング、地域の方の憩いの場所、子どもたちが遊べる場所、来場者が買い物や食事をし、町を元気にしていただく場所として整備していきたい。
既存の公園がなくなるようなイメージとなっているが、子どもたちが憩える、遊べる広場を整備してほしい。	ミニバンク広場、バスケット広場、アプローチ広場など、ボール遊びができ、また、雨の日でも遊んでいただけるスペースを計画しているところ。
防災機能について、佐賀アリーナは高齢者や車いすの方が使いづらい施設になっていたのを、京都アリーナはしっかり機能を果たせるようにしてほしい。	災害に備えた安心・安全のセーフティアリーナとして、指定避難場所としての高度な機能を確保する。インフラ途絶時にも利用可能とするほか、マンホールトイレや非常用発電機を設置、冷暖房システムのある快適な室内避難環境を実現する。また、バリアフリー仕様は当然として、例えば下水管破裂時に雑排水が流れ出ないよう貯蓄する設備を設けるなど、高度な防災機能を備える施設として整備していきたいと考えている。

アリーナに期待している。市内発着、市外発着、バス会社等、シャトルバスの想定はどうなっているか教えてほしい。	現時点で、決めきったものは持ち合わせていないが、西側に比べると物集女街道なども含めて東側の方が交通混雑が多いため、関係車両について西側ルートの中で、交通や車両誘導が図っていけないかと考えているところ。この西側ルートを活用してシャトルバスを運行できないかと検討しているが、具体的なルートや本数などは今後、交通事業者などとも協議の上、決めていきたい。
市民はこれまでから「ボール遊びができる広場の整備」を要望してきたが、今回の計画上にはそのような広場が無いと考えるが、どうか。	これまでの説明会や市長からの要望でも、子どもが遊べる広場の要望を多数受けており、現在の計画では多様な遊びができる広場を設ける予定である。また、アリーナ2階入口下の空間は普段も利用可能で、屋根があるため雨の日でも子どもが遊べる場として活用できる可能性がある。すべてのボール遊びが可能と明確に約束はできないが、できる限り要望に沿った整備を検討している。
サブアリーナの用途を教えてください。	サブアリーナは、地域の体育館のようなイメージをしている。地域の皆様に気軽にスポーツを楽しんでいただいたり、地域イベントに活用できる空間を作りたいと考えている。
サブアリーナが有料であれば子どもが使えない。	無料で開放することは難しいが、サブアリーナ右手の三角形のデッキの1階部分は、雨の日でも無料で入れる空間になっており、子どもたちが遊べる場所にする予定となっている。ただし、お示ししている図面は設計前のイメージとなる。
アリーナは有料施設であり、いつでも無料で開放的に入れる場所にはならないと思うがどうか。	イベントをやっていないときでもアリーナの敷地部分には自由に入れる広場などを設けていきたいと考えており、競輪施設はこれから事業者提案を求める段階であるが、いずれにしても、アリーナ・競輪場の両方とも、開かれた空間や周遊可能な遊歩道を設けて、ジョギングをしていただけるような空間を予定している。
公有地でアリーナを建てる建築主を教えてください。	京都府が予算と契約の主体となり、事業者グループと契約締結しており、最終的にはアリーナの躯体は京都府の所有となる。 与条件を設定したうえで公募型プロポーザルにより、民間事業者のノウハウを生かした計画の提案を受け、府民の負担軽減にも資するものと考えている。建設は大林組、維持管理運営は電通、となる。
動線がアリーナと競輪場がかぶっており、青少年が間違っ て競輪場に入らないようにしてほしい。	アリーナと競輪場の動線を分けることに関しては、完全に分離した方がよいのか否か、検討しているところ。投票に係る場所は少なくとも分ける必要があると思っているが、競輪場のスペースについても若いファミリー層の方など、来て楽しんでいただければと思っている。
競輪場、アリーナ整備は市が大きく発展するきっかけとなる と思っている。一度に問題の全て解決を図ることは難しいと 考えており、短期、中長期として、市を跨いで広い視点、エ リアで交通対策の問題を考えていくべき。	向日市の中で考えるというより、特に京都市南西部を含めた、広域的なまちづくりの観点が必要と考えている。京都府なので、広域的な観点から道路や限られた財源の中で優先順位をつけながら、しっかりと取り組んでいきたい。
車での来場を抑制する方法を知りたい。簡単なアナウンスだ けではダメ。近隣ではコインパーキング等の駐車場整備も進 んで来ている。呼びかけだけなのか。	ご指摘の件については、強くアナウンスしていきたいと考えているが、車で来られる方については東側に来ないよう、対策について、開業までの間、しっかりと検討したいと考えている。また、一般用の駐車場については、設けないことで考えている。
大原野口交差点だけを改良しても、他の道路が狭く交通環境 は改善しない。	現況の交通量を見る限りにおいては、交差点部分で、左折待ちや右折待ちをする車両を後続車両が待つことで交通渋滞が発生しているためレーンを加えて渋滞緩和できればと考えている。
大原野口交差点の改良はいつ完了するのか。	大原野口交差点については、現在測量等の現地調査を進行中であり、改良計画は京都市と連携して検討していく方針である。今後の調整によっては対応が開業に間に合わない可能性もあるが、早期整備に向けて取り組んでいきたい。
御陵山崎線の新規工区（福祉会館前北工区）は早期の整備完 了に向けてしっかりと取り組んでもらいたい。	人家が連続しており、用地買収も必要なため、具体的な時期は申し上げにくい、C工区として、早期事業化を目指しているところ。

9千人規模の来場者をシャトルバスで輸送できるのか。むしろシャトルバスの発着場所付近や運行する道路上で余計に渋滞が発生してしまうのではないのか。	シャトルバスや関係車両の集中による渋滞を避けるため、物集女街道側ではなく西側の中山向日線へ車両を誘導する方針である。特に大原野口交差点の渋滞対策として短期整備を計画している。来場者9,000人の多くはJR向日町駅・阪急東向日駅から徒歩で来場すると見込まれ、歩行者動線は時間やルートを分けて分散化を図る。東向日駅から競輪場間の歩道が狭い点も把握しており、車道・歩道双方で混雑緩和策を講じたい。
自宅前に高さ30mのアリーナが建設される。景観上の圧迫感や騒音・振動を大変心配している。現在の解体工事ですら迷惑を受けている。また、現状の見通しが悪い南西市道は改善されるのか。	建物は住宅地の北側に位置するため、日照への影響は生じない見込み。また、住宅地との間には歩道・車道・遊歩道のほか、一部は緑化法面やサブアリーナを配置することにより近隣住宅への圧迫感を軽減する計画である。アリーナ内のイベントによる騒音・振動については、敷地境界線で法令規制基準を満たすよう、設計段階にシミュレーションを実施の上、必要な対策を行う計画となっている。
公共事業事前事業評価制度をしていないとの京都新聞の記事に対して、京都府知事は評価に代わる対応をしたというが、交通渋滞、周辺環境の調査などしていない。	京都府公共事業事前評価については、通常の工事の公共事業とは異なり、設計施工から維持管理運営までを公募型プロポーザルで事業を計画しているアリーナについては、直接当てはまるとは考えてないが、事業の効率性や実施過程の透明性の観点からは、アリーナ事業においても同様に重要であると考えており、スポーツ施設のあり方懇話会、向日町競輪場事業外部有識者会議、京都アリーナ（仮称）整備運営等事業プロポーザル選定に係る意見聴取会議など、第三者のご意見を重層的にお聞きして、同様の評価を行ってきたところ。
公共事業事前評価が実施されていない。本来、検証されるべきことが検証されていないのではないのか。費用対効果はどのようになっているのか。	公共事業事前評価については、通常の公共事業と異なるアリーナの事業は直接該当するものとは考えていない。一方で、事業の効率性、実施過程の透明性の観点については、アリーナ事業においても重要であると考えており、スポーツのあり方懇話会や、向日町競輪場外部有識者会議、京都アリーナ整備運営等プロポーザル選定に関する意見聴取会議などにおいて、第三者の意見を聞きながら同様の評価を行ってきたところ。
ハード整備の中長期対策はアリーナ開業に間に合わないということか。必要な周辺環境の整備を完了させてからアリーナを整備するべき。	御陵山崎線A工区は用地取得済みで築造に着手、B工区はこれから用地交渉を進める段階である。アリーナ整備は敷地内だけでなく、地域全体のまちづくりの一環として進めており、ハード・ソフト両面から取り組んでいきたい。中長期の視点からも、周辺市町とも連携しながら早期事業化を目指し優先順位をつけて対応していきたい。
向日町停車場線は狭く、アリーナの前に現状の環境を整えてほしい。市民はスポーツの活発化より、生活環境が大事であり、向日市と京都府の連携が必須。	歩道が狭いことは承知しているが、道路整備を進めるには、時間も費用も相当かかるところであり短期的には難しい状況である。
交通問題による生活への影響を心配している。拡幅とは言うが、用地の買収はオープンまでに終わるのか。拡幅工事が間に合わないのにオープンされると困る。電車の来場見込みや時間分散についてはデータで示してほしい。	競輪場東側については、道路の交通混雑が比較的多い一方で、競輪場西側は道路幅が広く交通混雑が比較的小ないため、車両は、競輪場の西側の道路に誘導するとともに、今回の整備箇所の1つでもある府道中山向日線の大原野口交差点を改良しようとしているところ。
大阪から来る方は西向日に向かって帰るはずであり、物集女街道は歩道も道も狭く何千人も歩いて通れるはずがない。整備は間に合うのか。	競輪場では、過去1日2万人を超える方が来られており、最近ではKARA-1グランプリなどの大規模なイベントも実施していることから、過去のノウハウも活かしながら、ソフト対策の検討を深めていきたい。ご指摘の箇所については、狭い状況であることは認識しているが、今回まずはC工区について、事業化していきたいと考えている。
市と府が平行線である印象。巨額事業でもあるので、もっと開業に向けて府市協調で一生懸命に事業前進に向けて真剣に考えて取り組んでほしい。	向日市では、プロジェクトチームを組んでいただき、向日市と京都府で一緒になって、事業を進めていく。

説明会開催は6月にあったきりで、メディアでの報道はあったものの、住民へのお知らせはなかった。解体工事の近くに住んでおり、ほこりや騒音で迷惑している。今後も建設で迷惑をこうむるのに、住民の声を聴かずに進めていることに不信感。	構想段階から説明会を開催しており、令和5年度は10月と2月、令和6年度は6月に、各2回ずつ説明会を実施し、計6回行ってきた。今般、8回の説明会を開催するなど、節節目で説明会を開催してきたところである。また、説明会という形態に関わらず、ホームページのフォームや電話、メールなどあらゆる手法で御意見をお聴きしながら進めていくこととしている。解体については、工事前の昨年6月の説明会の中でも説明しており、工事の着手前には周辺の各自治会の方にも説明するとともに、周辺住民にはチラシも配っており、工事内容について極力皆様にお知らせさせていただいている。詳細は決まっていないが、今後新たに解体が進むエリアもあるため、騒音対策や安全対策も十分事業者と調整の上、お知らせしながら進めていきたい。
検討経過を定期的に発信してほしい。	昨年度の説明会の内容などは向日市に報告し、市からは要望書をいただき、それらを踏まえ検討している。引き続き、丁寧な情報発信に努め、段階ごとに説明をしていきたい。
出来るだけ交通緩和するとのことだが、どういう手段（JR・阪急・徒歩、自転車など）で何人くらい来場することを想定しているのか。大半が駅から歩いてアリーナ・駅までいく、駅までは一人がやっと通れる道もある。	車での来場は1割以下に抑えることを目標に設定し、残りは駅から徒歩で来られる方が多いと考える。向日町停車場線について、道幅が狭いことは認識しており、時間とルートで分散化を図っていきたいと考えており、誘導員によるルート誘導も図りながら、ソフト対策を徹底していきたい。道路整備については、優先順位等も踏まえ、検討する中で、まずはC工区の早期事業化を図っていきたい。
アリーナ計画に賛成だが、観客の動線はどう考えているか。アクセスルートの分散化は強制できないので、機能しない場合はどうするのか。	公共交通機関による来場を徹底し、車での来場を抑制する。歩行者の集中を回避するため、時間・ルートによる分散化を図り、誘導員の配置など、ソフト対策を講じていく。今後、運営事業者、自治体、道路管理者、交通管理者、鉄道各社等と協議の上、具体的な動線の検討を進めていく。
公共交通機関から徒歩での来場者が押し寄せれば、車椅子が通れなくなるのではないか。	JR向日町駅、東向日駅からのアクセスについては、事前イベントやシャトルバス、経路の分散などで、時間とルートで分散していききたい。
歩行者動線はシミュレーションされているのか。その結果を公表するべき。	輸送計画として、シャトルバスも検討している。現在、JR向日駅から阪急東向日駅を経由して競輪場に向かうシャトルバスを運行しており、この路線の継続活用も含め、検討していく予定である。
アリーナへのアクセスについて、バスだけでは対応できず、狭い歩道を大勢の観客が歩くことになれば近隣住民の生活に影響が出ると思うがどうか。	例えば、東向日駅から寺戸事務所に向かう物集女街道の利用や、旧西国街道の利用など、分散化を図っていきたい。
スポーツ振興の点から良いと考えているが、道が混雑すると消防署からの緊急車両が発進できないような事態が生じないか心配。	緊急車両の走行や通行については、皆様のご理解とご協力のおかげで、影響がないように運営されているもの。当然事業主体の我々としても同様に、影響がないように、しっかり通行・走行に協力していきたい。
向日市は全国的に見ても都市公園の面積が狭い中、災害が起こった場合アリーナ客が市内に流れ、混乱が生じる恐れがあるのではないか。	アリーナは災害に備えた安心・安全のセーフティーアリーナを目指している。近隣の活断層や今後予測される巨大地震に配慮しており、受水槽・緊急排水槽はインフラ途絶時にも利用可能。災害時にメインアリーナは物資の集積所や避難場所、サブアリーナも避難場所、エントランスホールは情報発信、事務室が災害対策本部、医務室、会議室、救護所、炊き出し可能な広場というような構想など、災害への備えも見据えながら、一方で皆様に夢と感動を与えられるような空間にしていきたい。
北側に住んでおり、現在でも競輪開催時の鐘の音が聞こえている。アリーナができればさらに音が出ると思うが、北側への防音対策はどう考えているか。	北側の防音対策については、今後検討していきたいと考えている。アリーナ施設の建物自体も、内部に徹底した防音対策を設計するよう事業者と契約をしており、その方向でこれから設計を進めていくところ。
過去にはマナーの悪い競輪来場者によって周辺住民は大変な迷惑を受けてきた。	全盛期には1万人規模の来場者があり、問題行動のある客もいたが、現在は来場者数が1,000人弱に減少し、若年層やマナーの良い利用者が増加している。過去の迷惑行為は認識しているが、現在はそうした事案は、ほとんど発生していないと考えている。
アリーナの客が周辺のスーパーに車を停めると、スーパーの客が停められなくなるが、対策はどう考えているか。	アリーナ来場者が近隣のスーパーやホームセンターに無断駐車することへの懸念について、全国のアリーナでも同様の課題があり、そのような行為はアリーナの運営やイベント開催に支障をきたすため、周知徹底を図り、不適切な駐車が行われないよう強く呼びかけていく。

駐車場の整備はどのように考えているのか。	基本的にアリーナに来場者用の駐車場は作らず、関係者用車両、バリアフリーの福祉用車両に限定する予定である。車で来る方については、現時点で約1,000台弱のスペースがある駐車場をどのような形で活用していくのが効果的か、これから運営事業者と検討していくところ。
自家用車のための駐車場は整備しないということか。	現在、大原野口交差点付近に京都府所有の既存駐車場（最大約1,000台）があるが、アリーナ来場者向けの駐車場としては原則使用しない方針で調整し、公共交通利用を基本とする。ただし、利用有無については今後慎重に検討する。
サンガスタジアムでも試合後は渋滞が起こっている。競輪場の第4駐車場はどう使っていくのか。アリーナの影響で民間駐車場が増えれば、さらに渋滞が起こるのではないか。	既存の競輪場の駐車場として、収容台数が約1,000台弱ほどであり、自由に利用できる状態のままいくのかどうか向日市の意見も聞きながら考えていく必要があると認識している。
アリーナの第2期、3期の維持管理・運営費を明確にしてもらいたい。	維持管理費は当初10年間は府の負担ゼロであり、長期的な収支は確定困難なためモニタリングを通じて、今後、決めていく予定である。
まだ利用できる競輪場を小さくして、アリーナを建設するというのは、税金の使い方として正しいのか。	京都府はかなり昔に国体が開催されて以降、屋内スポーツ施設の整備が遅れており、全国と比較しても屋内スポーツ施設の数が低位にある状況である。 国際大会なども開催できない状況の中、新たな屋内スポーツ施設を求める10万筆を超える署名や競技団体からの要望をいただくなどの経過がある中で、府民のスポーツを「観る・する・支える」ため、このような施設は必要であるとして今回、アリーナ整備を進めるといった判断をしたところ。
整備費について、当初145億と言っていたが348億円に膨らんでいる理由は何か。	当初の概算（145億円）は粗い試算であり、建物規模・内容の精査や物価上昇、さらには9,000席という民間提案を踏まえた構成により、現在の金額になっている。
物価上昇でもある中、今後、アリーナ整備費は増額とならないか。	稼働率が重要であり、スポーツ競技だけでなく、ライブ・コンサート・ビジネス利用といった多用途に対応するとともに、災害時には防災拠点となる機能を備えた施設としている。加えて、費用対効果の点で、民間のノウハウを活用するため、公募型プロポーザルの方式をとったところ。 将来の子どもたちや京都の未来づくりのために必要な投資は進めつつも、財政、公債負担などにも目を配り、持続可能な財政運営を進めていきたい。 建設物価の上昇については、国も工事請負についても上昇は転嫁していくべきとしており、スライド条項に該当すれば、建設費の増額も考えられるが、民間事業者と協力し、ノウハウも活かしながら、コスト縮減に図っていきたい。
維持管理運営費はどこが負担するのか。	アリーナが完成する令和10年10月頃から発生する、維持管理運営に要する費用については、民間のノウハウを最大限生かすことにより、他のアリーナの運営実績もある運営事業者から10年間、指定管理料の相当額について、府負担が生じない提案をいただいているところ。
ハンナリーズの利用でアリーナ運営の採算は確保できるのか。	アリーナはハンナリーズの試合だけでなく、ライブやコンサートなど多目的に活用し、稼働率を高める計画。行政では対応困難なイベント誘致・運営については民間ノウハウを活用し、伊藤忠商事（代表）、大林組（建設）、電通（運営）による事業体が運営を担う。開業後10年間は京都府の運営費負担ゼロの契約となっており、府民負担を抑えた効率的な運営を目指す。
アリーナの予算が京都市から向日市へ移ったことで上がっていることについて説明してほしい。	当初の金額は概算であり、その後、京都市と向日市それぞれで建設した場合について、同じ条件で比較したところ、向日市の方が建設費が安く収まるといった結果が出た。その上で、従来の公共事業としての発注よりも価格を抑えるため、公募型プロポーザル方式をとった結果、整備費は348億円超かかっているが、民間努力により、建築単価の低減を図り、同規模の施設を公共事業として整備した場合と比較して、コスト削減につながっているところ。

府や向日市の収入はどれだけ見込めるのか。将来世代の負担になるような施設にならないか。	具体的な収入については、現段階では確約できる数字は提示できないが、アリーナ整備を契機として、来訪者による買い物や飲食などの経済波及効果を通じた地域活性化を期待している。また、アリーナがイベント施設としての役割にとどまらず、地域住民が日常的に憩える遊歩道や子どもの遊び場といった機能も持つよう検討を進めており、負担を感じる地域の方々にもプラスとなる空間づくりを目指している。住民の懸念に対しては真摯に受け止め、今後も丁寧な説明と対話を重ねていきたい。 向日町競輪場は、過去75年間で約474億円を一般会計に繰り入れ、公共福祉に大きく貢献してきた実績がある。また、向日市に対しては「周辺環境整備事業交付金」として近年は毎年約4,000万円を支出しており、市の道路や河川整備、自治会補助金などに活用されている。昭和50年代以降で見ると、これまでに約28億円が向日市に交付された実績がある。今後も同様の支出を継続する方針である。
向日町会館を再整備で残してほしい。	向日町会館に関しては、今後向日市とも相談・検討していきたい。
競輪場の来場者は少なく、再整備後に600席も要らないのではないか。競輪場敷地を削って、アリーナ敷地を拡げてよいと思う。	現在、本場開催をしていないが、車券の販売のみであっても毎日400名以上の方が来られている。 実際に、競輪をやる際は、1日あたり1,000人程度の来場があるので、その辺を考慮しての計画であることをご理解いただきたい。
出入口は2か所か。また競輪場のバンクが333mになるとあるが250mになるようなことを聞いたことがある気がする真偽はどうか。	出入口については、現在の競輪場の東入場門あたりと西入場門あたりの2箇所をイメージしている。 バンクについては、京都府として250メートルにすると決定したことはなく、333メートルで整備する予定である。
向日町競輪場の333mトラックが変わる可能性はあるか。自転車競技の国際基準上問題ないのか。	333mで、今後事業者の募集を図っていきたいと思っており変わることはない。現在400mで、これが全国的に大半を占めているが、333mのバンクも全国的には3分の1程度あり、国際基準は250mであり、当然対応可能なバンクにはなっている。
これまでの説明会などで出た意見をどのように集約して反映してきたのか。	「住民の声を聞きっぱなしではないか」との指摘に対しては、向日市と連携しながらLINEアンケートなどで過去最多の意見を収集しており、それらを市役所で整理・集約し、京都府として最終判断に反映させている。今後も、説明会未参加者にも意見内容が共有されるよう、匿名化したうえで府のホームページ等で公表する方針である。
向日市と連携してと言っているが、なぜこの場向日市がないのか。	今回は京都府が事業主体として説明を行っているものであり、向日市とは日々連携をしているところ。
長岡京市民だが、地区計画の説明会だけでなく、広域的な説明会を開催してほしい。	今回の説明会では、単にアリーナ施設を整備するのではなく、まちづくりの観点で、短期的に出来るハード整備、中期的に取り組むハード整備を含め、また現在の交通状況も踏まえて、本日説明出来る内容について説明しているところ。本日の内容がそのすべてというのではなく、引き続き必要な検討を進めていきたい。
説明会の定員が8か所合計で880名。連休中の開催だからかもしれないが、関心が高い事業であるはずなので1,000人、2,000人の申込があっても良かったのではと感じる。なぜ今の時期に開催したのか。	申し込みいただいた方すべてに参加していただける規模は、用意させていただけたかと思っている。そもそも日程が合わない方には申し訳ないが、2月議会で契約をした後、1日も早く説明会を開催してほしいという要望に、できる限りお答えしようとする中で、新年度の新体制が整ってから、速やかに開いた結果が、このタイミングになったところ。ただ、市民の皆様とのコミュニケーションのとり方については、昨年、向日市がLINEアンケートをされたところ、過去最大の回答があったと聞いている。京都府として、引き続き、説明は丁寧に尽くし、向日市との連携も強めて、府市一体となって進めていきたい。
駅のホームが狭いので必ず人が溢れかえることになる。	駅ホームの混雑については、阪急やJRなど交通事業者との協議が必要のため、現時点で具体的な対応は示せない。ただし、過去の競輪開催時やKARA-1グランプリでの2～3万人の大規模動員の経験とノウハウを活かして阪急電鉄と協議する中で、駅のホームは拡張整備しなくても十分対応可能であると確認しているところであり、今後も来場者の退場動線マネジメントを含め、引き続き対策を検討していく。

アクセスルートの対策は定量的に示すべき。アリーナ来場者に対する駅のキャパシティは検証されているのか。	駅舎のキャパシティについては、現在の車両編成数やダイヤなども踏まえながら、交通事業者である阪急電鉄やＪＲ西日本とともに、検討していきたい。
北山（府立大学）のアリーナ計画はなぜ断念したのか。	府立大学でのアリーナ整備は正式に決定した計画ではなく、老朽化した体育館について、どういう整備をしていくのが良いか専門家の意見を聴いてきたところである。現在、専門家の意見を踏まえ検討を進めているところである。
本説明会は地区計画変更に定められた説明会なのか。今後の手続きはどうなるのか。	今回の説明会は、地区計画の変更に関する住民説明会の位置付けも持ち合わせた形で開催させていただいている。今後、地区計画の変更については、向日市で法手続きがなされ、都市計画審議会等の議論をしていただく中で、縦覧や意見聴取の機会が設けられる形になろうかと思っている。
事業を開始してから都市計画変更をするのは順番が逆ではないか。ボール遊びができるように要望があったが、変更後の広場は狭く、住民の声を反映していない。現行の地区計画に合わせてアリーナを建設したらよいのではないか。	周辺と調和した娯楽・レクリエーション地区の形成という地区計画の趣旨と効率的・効果的な整備計画の両立を実現するため、公募前から地区計画を変更するのではなく、より良い提案を幅広く求めた上で、今回、地区計画の変更を提案しようとするものである。京都府として「文化・スポーツ・レクリエーション活動としての有効活用」「周辺環境の調和」といった現行の地区計画の趣旨に沿った提案を求めた結果、バスケ広場や遊具広場等のイベント開催時以外にも使用可能な空間を確保する計画となっている。
地区計画の広場（緑地）を細長い形状に変更することで、憩いの場としての機能が果たせなくなるのではないか。	競輪場敷地の西側から南側まで帯状に緩衝帯としての機能を果たすとともに、現行の4,600㎡から5,000㎡に面積を拡充することで、より近隣住宅の環境に配慮するもの。また、イベント開催時以外でも地域利用が可能なバスケ広場や遊具広場など、憩いの場を設置する計画である。

当日アンケート（自由記述）の概要

別紙②

主なご意見
向日市に出来ることは大変ありがたい。関西で一番小さい向日市にアリーナができることに不安もあるが、未来を支える若者、子どもたちのために誇れるアリーナを作ってほしい。いろんな人の思いがあると思うが、無事、計画が進むことを願っている。子や孫の代まで、「良い施設を作ってくれた」と楽しんでもらえる、活気が生まれる施設をお願いする。
事業を実施しながら周辺を整備するのはやむを得ない。周辺道路整備はアリーナ着工までに出来る限り、終わるようにしてほしい。整備後もいろいろ問題は出てくると思うが、問題があれば解決しながら、住民に喜ばれる事業になるように善処してほしい。問題は多いものの、完成後に対応し改善することとし、近隣住民の反対意見をクリアして向日市にアリーナを整備出来るようにがんばってほしい。
アリーナはもっと広く道路を確保出来る迷惑のかからない場所に建てるべき。なぜ向日市に建設なのか必要性がわかる説明ではなかった。人口密度が高く生活道路しかない向日市のような狭い場所で、大勢の集客を目指すアリーナを整備すれば住民に迷惑がかかることは必至。向日市民の安全な生活を守るために、アリーナ建設には反対であり計画内容の変更が必要。今後設計変更可能であれば、住宅街から高い建物は離してほしい。高さ30mは圧迫感がありすぎる。
全員が納得することは非現実的なので、出来る限りの対策を講じ、試行錯誤しながら長期的な視点で事業を進めてほしい。相対的にプラスの面が多いと思うので、期待している。
整備スケジュールが全体的に短いように思うが適切な計画期間なのか。これだけの大きな事業、成功させるためには数年では無理がある。道路及び歩道の拡幅が間に合わないと思われるので、対応方法の具体化を急いでほしい。
地域住民に開かれた場になるのは大変嬉しいことであり、イベントなどの誘致等についても収益性があり、向日市の財政に大いに貢献出来るため期待は大きいはず。何をするにも、いろいろな問題が出るが、市民にプラスになるように計画を考えてほしい。毎日イベントがあるわけでもないため、ある程度の不便については、皆が少しずつ我慢するのもありかと思う。
今は競輪場しかなく「ギャンブルの町だね」とコメントが返ってくるので、アリーナを整備してほしい。
京都アリーナの施設整備を住民として大変嬉しく思っている。スポーツやコンサート、アートイベント等、様々なイベントが誘致されることを楽しみにしている。こけら落し公演に誰が来演されるのか楽しみ。おしゃれなショップや、飲食店がほしい。このような機会は中々無いので、できれば文化的な向日市のシンボルとなるような施設にしてほしい。日本から世界に誇る素晴らしい施設を設置いただきたい。
アリーナは市民が憩える地域施設として活用するべき。アリーナの床面はフロアなのか。夏の気温が高い今、乙訓地域の学校の運動会等に利用はできるのか。
競輪場を廃止しアリーナと広い緑地に絞る計画であれば、騒音軽減や市民利用価値向上が期待できる。向日市には広い広場が無いのでアリーナではなく子どもも楽しめる芝生のための単純なもので良いのではと思う。
南海トラフ地震に備え、このアリーナ等が市・府乙訓地域のハブとなる防災拠点となることを望む。防災面で、どんな物を置き、どれくらいの収容が可能か、もっと詳しく決めておいてほしい。災害時は炊き出しやトイレにも活用可能な可変性のあるベンチ等を多く設置してほしい。マンホールトイレは何個設置するのか。災害時の避難場所について記載がないため示してほしい。
競輪場再整備敷地内に様々整備するようだが、面積上アリーナ・サブアリーナ・子どもの広場を整備できるのか。市民の憩いの場は広く整備してほしい。
広場を緑地とするのは納得いかない。
説明会の開催を感謝する。当面の予定等が解り良かった。本日いろいろ出た意見や問題点・課題を十分踏まえて、アリーナに着工してほしい。
向日市の他の広い場所に建設されてはどうか。現在、向日市体育館南側の広大な土地で、鶏冠井地区や上植野地区で学研都市をモデルとした再開発計画があるので、そこでアリーナ建設をされてはどうか。
アリーナは誰の為に必要な施設なのか。恒久的に必要なのか。

プランを再考してほしい。収容可能人数は1万人でもあくまでも最大人数なので、例えばプロバスケットの試合なら4千人ほどしか来ないといったことを、はっきり話してほしい。
競輪全盛期に、どのような様子であったか分かっているハズなのに学習していない。当時近隣住民がどのように迷惑であったかを考えれば今回のアリーナ計画もそういうことを一番に計画するべき。向日市だけでは実現できないので、地域整備を期待している。
道路の混雑や安全面の確保など、計画通りに進むものなのか。完成後の運営面での経営責任者はどこなのか。
アリーナ建設に反対しないが、競輪場とアリーナをセットで整備することに無理がある。
アリーナ建設を楽しみにしているが、バスケットボールコートが必要としていない人もいる。バスケット専用ではなく多様なスポーツもできる多目的広場を整備してほしい。
競輪場の余剰地は市民の憩いの場・市民のスポーツのために使ってほしい。収益性も大切だが、高齢者から幼児まで幅広い世代の市民が、イベントがない時でも、運動することも含めて気軽に多用途で利用可能な、歩いて集える道の駅のような屋内型の公共施設を整備してほしい。向日市の子どもたち（0歳～18歳まで）が無料で過ごせるスペースを確保してほしい。
猛暑が続く中、緑地や遊び場の整備には熱中症対策が必要であり、地元住民が日常的に無料で立ち寄れる、涼める場としての使い方を考えるべき。子ども広場には多くの屋根、木陰やベンチを作るとともに、バスケットボールコートにも遮熱の屋根が必要。温暖化で今後暑さはひどくなるばかりなので、安全対策をしっかりしてほしい。
子どもが遊べる場所を検討してもらえるのはありがたいが、アリーナ周辺の子どもが遊べるスペースが狭いと考え。乳幼児が遊べる広場や室内環境を整備してほしい。亀岡のキリノコ、洛西口のガタゴト、茨城のオニクルのような小さな子どもが安心して遊べる屋内の遊び場を作してほしい。
音響設備など、観客もタレント側も使い勝手が良いものにしないと評判が落ちて整備後利用してもらえなくなる可能性があるのではないか。
課題が緩和されて活気ある京都アリーナになることを、とても期待している。コンセプト通り市民と共生し市民に愛される施設づくりに取り組んでほしい。
ハード対策とセットで良いアリーナを整備してほしい。整備するからにはアクセス手段を限定せず喜んで来てもらえる場所にすべき。行きにくい場所では利用者がいなくなる可能性がある。整備場所は西京極が良いのでは。
現在の交通渋滞を甘く考えすぎ。交差点の改善だけで解消出来るような状況ではない。中山向日線は道幅が広いと説明されるが、アリーナができて交通量が増えると不十分だと思うので拡幅整備を検討してほしい。国道171号線からの交通量が増えると思う。説明内容以外の箇所で予定している道路整備内容を示してほしい。
交通渋滞の対策について、具体的になぜこれでうまくいくのか、定量的に説明してほしい。アリーナと競輪場が同時開催される日の交通状況はどうなるのか。周辺施設（イオンモール、サンガスタジアム等）と比較調査してほしい（広い道路を有する亀岡でも大渋滞が起きている。）。
駐車場スペースを確保する場合、インターネット上で「車でも止められる」と情報が拡散すると思うが、どのように車での来場を抑制するつもりなのか。阪急の踏切の渋滞をなんとかしないと。現在でも朝夕は渋滞している。府道・市道ともに拡幅してほしい。
遊歩道を緑地とする案には無理があり、子どもが遊べる本格的な緑地が必要。ボール遊びが可能な子どものための緑の広場・公園スペースをもっと増やすべき。敷地内の公園にトイレを整備してほしい。
アリーナは地域の子どもたちのクラブ活動や子どもの習い事に使用出来るようにしてほしい。 家族で楽しめる日、カフェや大型犬でも遊べるドッグランなども作っていただきたい。
向日市に屋外でバスケットが出来る場所が少ないので屋根付きバスケットコートを作してほしい。
周辺の遊歩道をジョギングで周回できると、自然と人が集まり、市民の健康増進につながり、また、夜間でも安全に運動できるように街灯で明るくすることで、防犯面でも良い影響があると思う。道路に何mとの表示もあるとより良い。健康増進施設の増設も検討してほしい。

特に「タコ公園」は市民の憩いの場として愛されているので、撤去することが残念。この公園等は整備後も大事に残してほしい。市民の憩いの場である桜を活かした設計にするとともに、新しい公園を作る際は三代目のタコ遊具を設置してほしい。
多額の整備費で、京都を代表する施設を作る大目的をどこにおかれているのか。
アリーナの中に憩いの場を設けるとあるが、向日市には元々、竹の径をはじめとした憩いの場がある。
向日市は考古学者にとって「聖地」と言われる程の歴史の街。アリーナができれば歴史的なことを記した掲示板を設置してほしい。
イベントやコンサートで前泊・後泊される方のニーズに対応可能な宿泊施設、ホテル等が現在近隣にないので心配。
下水処理機能は9,000人規模に対応出来るのか。
9,000人規模の来場者の対応（入場処理に半日以上かかると会場に間に合わないなど）はどうするのか。
9,000人規模の来場に特に不安はない。
アリーナ収容店舗の公募は地元が参加できるハードルの低い仕組みが必要。
アリーナはPFIなど民間活用で実施すべき。
2017年に安倍総理が未来投資会議で2025年までに全国にアリーナを20箇所作ると宣言されているが、向日市のアリーナは宣言に則ったものなのか。
VIP用施設はいらない。
コンビニは一つでは足りない。
一等地にコンビニは不要ではないか。
車での来場を抑制するので大丈夫と聞こえる説明を繰り返していたが、具体的にどう交通混雑を解消するのかが不明で納得できない。イベント時の交通ルートが不明で不安。
アクセスルートについて、西側を除いて内容がない。東や南からは来場するなど考えているのでは。近くだけではなく、全体の交通を見てほしい。
交通問題もソフト面で工夫するとのことだが限界があるのでは。不安は解消されなかった。
向日町停車場線がハード整備対象外となっているのが問題。現在も競輪場送迎バス路線で利用者が多いため、短期対策の対象にすべき。16年前に向日市はこの路線を最重点路線とし拡幅計画を説明しているため、府が整備を進めると住民は信じている。

車の抑制策も具体性がなく、現実的には人の動きを完全にコントロールするのは不可能で、むしろ車は増えると考えられる。
シャトルバスのルートを示してほしい。シャトルバスはJR向日町駅から会場まで直通運行しないのか。シャトルバスをするにしても駐車場所を考えないと難しいのではないかな。
今でも阪急駅前、JR間の道路等が混み合うので、大規模イベント開催時の渋滞が心配。
伏見向日線の阪急ガード付近、向陽ゴルフ場～西への競輪場までの車道が狭く自転車で走行しにくいので拡幅してほしい。自転車道も作ってもらわないと車や人との接触事故が増えると思う。
前田地下道西側のT交差点混雑が混雑し、西側は動かない状況。府道伏見向日線、前田ガード西の交通問題の解決方法を示してほしい。
171号線に抜ける交通渋滞が心配。JRを越える道を作してほしい。阪急も高架にしてほしい。
B工区間が短すぎる。交通量が多くなるので危ない。
C工区の道路拡幅を早期に実現してほしい。
向陽小学校前の道路や府道を拡幅してほしい。
物集女街道にカーブミラーが少なすぎるので、拡幅後も左右を確認可能なカーブミラーを設置してほしい。
物集女街道や周辺道路の渋滞対策として電柱の地中化を実施してほしい。
競輪場前交差点の信号は時間帯に応じた調整を希望。
大山崎IC・長岡京ICからの大型バスや車両の往来についても考えてほしい。
周辺道路等の整備（R10年までに）は不可欠。自転車、バイク、車、歩行者、安全に走行できる道路をお願いする。車の速度を抑制する道路づくりをしてほしい。
渋滞対策についても、現状と対策後の予測を数値やシミュレーションで示してほしい。
現在でも物集女街道の交差点が渋滞している時間帯がある。あらゆる想定による指標を示してほしい。
西京区（洛西地域）の交通にも影響があると思う。
アリーナ整備に関係する主要道路に資源を集中してほしい。

JR・阪急駅とアリーナ間を結ぶ道路整備は必須。地下道・シャトルバス・新道開通も必要。 物集女街道の道路拡幅は4年以内にしてほしい。
車両の通行は地元の方のみとし、完成後セットバックを望む。ただし、アリーナへの道路は4車線化を望む。
工事車両はどのルートを一日どのくらい通るのか、工事場所毎に整備計画を明らかにしてほしい。工事車両の通行経路の説明が必要。
道路整備において住んでいるところを立ち退けということか。
駐輪対策も不十分で実情を考慮していない。
道路拡幅には限界があるので、車での来場を減らせるようなソフト面での対策を期待する。
交通環境が改善することは困難だという思いは変わらない。アリーナ周辺の交通問題の解決に引き続き取り組んでほしい。
道路整備や公共交通機関の問題について、改めてリスクを洗い出して、リスクの通減方法を具体的に考えてほしい。
反対意見は交通道路問題ばかりであるため、その問題を解決し、理解が得られるよう努力願う。
アリーナ整備によって市が発展し、アリーナ周辺の道路整備が進むことを願う。
まちづくりはトップダウンではなく、市民が中心になって行わなければうまく機能しない。夢のアリーナとしてオープンできるように地域住民との対話は必要不可欠。アリーナから始まるまちづくりではなく、住民から始まるまちづくりにすべき。地域住民の理解には時間がかかるため、丁寧な対応を望む。住民は不安も大きく、決まったことを何度も説明するだけでは、不安の解消にはならない。向日市民は決まってから説明を聞かされることに怒っている。住民の交通混雑緩和や歩行者安全への関心に対し、府は十分な情報を示さず、住民の声を軽視している。計画ありきの説明にしか思えないため市民の不安に対する具体的な答えが必要。いろいろな課題がある中で急いで事業を進めないでほしい。
京都市民の声は聞いて向日市民は相手にしない。
競輪場に関する説明会は何度もされているのに、アリーナの建設に関しては順序が全く逆。市民の同意どころか近隣住民に何の事前説明もなく、こんな大事業を進めていく府のやり方には不信感しかなく許せない。競輪場の再整備が始まらない中でアリーナ整備の事業者や開業時期が決定していることに驚いた。アリーナ建設に反対しても無視されて着々と計画が進んでいくことに憤りを感じる。
計画が動き出している中で住民意見がどれだけ今後取り入れられるのか疑問だが、出た意見を受け止め、計画を変更する柔軟性を持ち合わせることも重要ではないか。丁寧に進めるというが、そのような姿勢は感じられない。車での来場をスタッフの呼びかけで抑制できると本気で思っているなら、市民をバカにしているとしか思えない。アクセス方法を公共交通機関と徒歩に制限し、向日町停車場線とその周辺道路の利用に誘導すると説明されるが、最低限この点を解決出来る案を提示出来ないで周辺住民の理解は得られない。
アリーナの運営スタートと周辺整備とが時間的に合わず、アリーナ先行になって混乱しかねない。「用地買収時期が不透明な段階で、今後、整備するつもり」と言われてもアリーナ完成後に無かったことにされそうで信用できない。道路整備は市民の切実な願いであり、そのまま道路整備が放置されて交通環境が悪化してしまうのではないかと危惧している。住民・歩行者の安全最優先の再開発にしてほしい。高齢化もどんどん進んでいる。子どもや高齢者が安全に生活できる優しい環境を考えてほしい。
道路拡幅や歩道の安全性確保が先決。市民が安全に生活出来る基礎が出来てから、有効・有意義な方法で土地活用を進めてほしい。

事前評価なしの事業実施や制度を守らない姿勢に納得できない。他県のアリーナ建設地の環境やイベント時の人流などは調査されたのか。向日市と似ている環境のところで、どうなっているのかなど具体的に示してほしい。今回環境影響調査をする必要がないと判断されたのはなぜなのか。きちんと調査して丁寧に説明すべき。
西日本で一番小さな市に1万人収容の箱もので賑わいを作ろうというのはB/Cが1以上には絶対にならない。事前評価を行わない理由の一つではないのか。
近隣県の設置経過は参考にされず、住民不在でアリーナ整備計画が進んでいる。向日市民をもっと大切に考えてほしい。プロスポーツ団体などの意見ではなく、前もって道路整備して、市民の意見を聞いてから着工すべき。地元に愛されるアリーナ施設になっていくように今後の柔軟な市民対応に期待する。
子どもたちのニーズを取り入れた設計となるよう、地域の小中高生が設計段階から一緒に考えられるような進め方を検討してほしい。将来を見据えた住民中心のまちづくりを進めてほしい。
向日市と京都府の連携がどのようになっているのか詳細に説明してほしい。向日市は京都府に任せすぎ。向日市として、もっと積極的に全面に出て、アリーナを含めた街づくりを考えるべき。
狭い市道を抜け道とする混雑が予想される。道路拡幅に向けて早急に府市で擦り合わせを行ってほしい。
検討事項が多くあると思うので、それがどのように進化したのか、ホームページ等で分かるようにしてほしい。向日町競輪場の再整備に関する公式サイトが無いのであれば早急に立ち上げて向日市民に周知してほしい。
住民向けの相談窓口を設置するとともに、伝えた意見に対する返事がほしい。苦情対応や責任の所在も不明確。問い合わせ窓口を明確にし、府や市の掲示板などで情報提供するとともに、内容や期日は厳守し、中途半端な回答は避け、実行できない場合は必ず具体的な代替期日を提示するなど、約束を守る責任の所在も明確にしてほしい。デメリットを受け入れさせたいなら、もっとメリットを増やしてほしい。完成してからも住民の苦痛を忘れずに対策を続けてほしい。
周辺住民に対してもっとマメに工事計画を周知してほしい。現在の工事内容・工事期間などの情報が住民に届いていない。
アリーナ建設以前にあった都市計画を府ホームページでいいので修正して公開してほしい。
過去の経過を踏まえない場当たりのな行政になる。良い施設整備になることを願っているの、計画をきちんと立てて無駄が無いようにしてほしい。
完成予定時期が遅れないように施策を早く確定して開場までに整えてほしい。しっかりした体制で、素晴らしい施設にしてほしい。
向日市民でさえ車が無ければアクセスしにくいのに、どうやって日常的に楽しめるのか。もっと向日市、近辺の地図を勉強しておいてほしい。
スムーズな来場者の移動のために、なぜ東向日駅の高架を先に計画しなかったのか疑問。府民の意見をデータ集約したものを先に示すべき。
向日市地域（あるいは長岡京市北部、京都市大原野）のビジョンが見えてこない。京都市や長岡京市の理解も得た上での広域的な対策が必要。
責任者は現場を確認し、シャトルバス運行や周辺問題も検討すべき。
知事に説明に来てほしい。
設計時は、アリーナの運営予定会社や専門家などと一緒に検討されるのか。より広い視野で多くの関係者を巻き込んだ上で開かれた議論を進めてほしい。

アリーナと競輪場を同時期に整備する予定では、2施設同時に繁忙となるためアリーナ整備工期にも影響するのでは。車両台数を制限した適正工期で工事を実施してほしい。
歩行者の分散化について、JR⇄阪急間は歩道が狭く混雑して大変危険なので対策を検討してほしい。寺戸事務所の交差点までは歩けると思うが、その先、アリーナ・競輪場までどのように案内されるのか。どの道もそれほど広くない。出来るところからで良いので、早期かつ具体的に、寺戸事務所から福祉会館まで道路整備を含めて、公共交通機関の利用促進のためにもアクセスルートをしっかりと対策してほしい。
阪急西向日駅、東向日駅、JR向日駅からアリーナまでの歩道を整備するとともに、公共交通機関を充実してほしい。向陽小学校前の歩道や向日町停車場線が危険なので整備してほしい。伏見向日線の阪急ガード付近、向陽ゴルフ場～西への競輪場までの歩道が狭く自転車で行きにくいので拡幅してほしい。これ以上拡幅ができないのが心配で、自転車通行さえ困難ではないか。
公共交通機関利用促進案などに具体案がない。安全性が担保された公共交通機関への誘導策など、施策を早く確定して開場までに整えてほしい。
イベント終了時に歩行者が住宅地へ誤侵入しないよう、誘導員を適切に配置してほしい。
アクセスのソフト対策は効果がなく、警備員では住民と観客の区別が困難。また何度もお越しになる人は遠回りしない。公共交通機関利用者は最短距離で来場する。みんな終わったら早く帰りたいはずなので、時差退場の徹底は難しいことも考慮すべき。来場者の分散帰宅は困難であり、府と市で最適な街づくりを進めてほしい。
人が溢れかえる昔の競輪場最盛期の再来になってしまう。歩行者利用優先でのアリーナは道路整備なしでは有り得ない。アリーナを利用する人も住んでいる人もゆったり歩ける道がほしい。アクセス道路は5m歩道並びにアーケード（屋根）が必要。
駅からの交通アクセス等の周辺の話が無かったのが残念。人が集まることなので動線計画の説明がほしい。公共交通機関での来場推奨は、交通弱者に負担にならないか。
競輪場の北門を開けて交差点まで降りなくて良い道にしてほしい。
シャトルバスをどこから送迎されるのか。
東向日駅前も事故の発生を防げるのか。
歩道が十分に整備されるようで嬉しく思う。
周辺環境整備は府として後年に渡って責任を取り続けてほしい。
生活道路は今でも交通量が増えており安全面が大変心配。歩道が狭いため、生活道路に入って来る想定なのか。数か月後、住宅地や近隣店舗に不法駐車が増えるのでは。通り抜け車両の増加も懸念しているので車両誘導を徹底するとともに対策を講じてほしい。
各イベントの開催時は混雑で、児童の歩行困難や、救急車の通行などに影響する。緊急車両の走行については、出動の遅れがないよう対策を強く求める。
競輪開催日とアリーナ施設の利用日が重ならないようにしてほしい。
ポイ捨てや人流による車の出入混雑など周辺環境の悪化は明らかであり、誘導による人流緩和は机上の空論になって周辺住民と来場者の間で喧嘩が起きるのではないかと。居住エリアには住民や関係者以外立ち入れないようにするといった対策を徹底するなど、地域の生活環境が悪化しないよう配慮してほしい。歩道の安全面やポイ捨てを抑制する意味でも、道幅を広げることは絶対必要。
車で来場者が周辺スーパーなどを利用することで周辺住民の生活に影響が出ないように。経済的効果のみ考えるのではなく、市民にとっては迷惑施設であることを考えてほしい。

中山向日線は洛西ニュータウンや上里団地などの生活道路であり、通行車両が増加しては困る。来場者の通行区間に住家があるので生活環境がどのように変化するか不安。とにかく静かな住環境だけは守ってほしい。アリーナに向かうシャトルバスを含めた車が通行するとなると近隣住民が出歩けなくなる。
音・振動・セキュリティ面や、夜間の照明、送迎バスの騒音や渋滞も問題視している。今までも屋外での自転車競技等のアナウンスが響いて住環境が破壊されている。市道には街灯を設置し、通学路や子どもの送迎経路の安全を確保してほしい。
競輪は16時ごろに終わるがコンサートだと21時は過ぎてしまう。騒音やその他迷惑行為は夜遅くまでありそう。内外からの来客で様々な人が集まる地域となり、治安悪化が不安であるため交番を設置するなど、防犯対策について検討してほしい。18時までの使用時間制限を求めたい。
向日市の公園は以前から夜間の照明が不足しており、真っ暗で治安に懸念がある。こうした細かい治安対策も同時に推進してほしい。
子ども・地域住民が安全に過ごせるよう配慮してほしい。保育園・小学校の行き帰りが心配。大型施設を作るなら、住民のことを考えてほしい。物集女街道や向日町停車場線の歩道の狭さが気になるので子ども達に危険が及ばないようにしてほしい。
バスケット広場が交通量の多い道路に面しているので、ボールが道路に出たり、子どもがフェンスを乗り越えたりしないようなフェンスを設置するなど対策してほしい。
周辺道路の混雑を考えると、一般用の駐車場は無い方が良い。来場者に対して駐車場がないと周知徹底してほしい。
駐車場問題については公共交通機関で来るようにアナウンスすると言うが誰も言うことを聞かないと思う。自動車台数が増加することへの対策はどうか。駐車場はあるのか。道路や駐車場等の利便性や安全性を十分確保してほしい。
1万人以上の来場であれば1,000台程の駐車場が必要。イベントスタッフ用の駐車場も無いと思われるので併せて整備が必要。
西側道路に予約制の駐車場を設置してシャトルバスを出すなど、京都ハンナリーズのためにもパーク＆ライドを検討してほしい。
駐車スペースが無いならば、第4駐車場の立体駐車場化や建設予定地を変更して向日市の他の広い場所に駐車場などと併せて建設してはどうか。
イオンモール桂川のように駐輪場や駐車場が沢山整備されない仕様では不安。駐輪場の設置はあるのか、あるならどのくらいの規模なのか。
JR向日町駅近くの観光交流センターの駐車場は、シャトルバスの起点として利用されるのか。
アリーナ整備後の収益が心配。稼働率の高い施設を期待している。
アリーナ、競輪施設それぞれの工費や運営費・維持費に関して、市と府の負担割合や収益見込みなどの具体的な事業性、収益性の試算データ（費用対効果）をホームページ等で公開してほしい。
せっかく多額の資金をかけるのに現在の案は、中途半端で将来的な発展は難しい。維持費の負担や安全対策が不透明。運営が赤字になった場合はどうするのか。建設費は府経費だが、周辺メンテも含め将来的に向日市や向日市民の負担になることはないのか。
348億円の整備費に納得できない。1プロスポーツのために我々の血税を使うのはやめてほしい。
アリーナの整備予算がないようだが、府議会でどのように説明されたのか。

近隣の地域住民にとっては、解体工事による騒音・埃等大迷惑を受けており、今後建設・開業になっても、ずっと住環境は悪化するばかり。競輪場解体工事の土埃が大変なので泥を水で洗い流してほしい。道路のアスファルトも鉄板で十分に養生してほしい。
競輪場存続については賭博反対の状況に対する見通しが甘いと思う。ギャンブル施設は少なくしてほしい。
競輪場は広場やテニスコートなど、他のスポーツ施設にして住民が利用できるスペース作りをしてほしい。
競輪来場者動線と子どもが遊ぶエリアが同じだと、問題ではないか。子どもに配慮した環境にしてほしい。競輪場は平日に市民が自由に利用できる有益な場所として活用してほしい。
競輪場とアリーナ入口の住み分けはどうするのか。
入場に（特に競輪場）マイナンバーカードで入場出来るようにすればギャンブル依存を防止出来るのでは。
競輪輪収益474億円のうち、向日市への還元内容と金額を説明いただきたい。
競輪場再整備の中で今後250mバンクの提案があったとしても絶対に採用してはならない。
向日町競輪場の最終開催時にバンクウォークがなかったことが残念だったので、国体終了後にその機会を設けてほしい。
向日町会館は是非残すか建て替えをしてほしい。
道路拡幅も未完成で交渉力不足が露呈し、想像以上に具体的な対策が見えてこなかった。これまでの住民説明会で周辺環境整備への意見があったのか。今回の説明会の内容で反映されたものは何かなど、これまでの説明会のQ&Aの詳細や争点となっているところを整理して、HPやチラシなどで広く意見発信するようにしてほしい。参加者の方々の懸念に対する対策・検討の状況を随時見える化を必ず実行してほしい。
来場者対応の「分散化」がよく理解できなかった。広い道路を造ってから建物を建てるべきという意見に具体的に答えてもらえていない。自動車での来場の抑制を説明されるが中途半端で道路の整備についての説明が分かりづらかった。交通渋滞・緊急車両等への答弁が不十分で不満が残った。ソフト対策で対応するとの説明では理解不能。説明内容の実効性が疑わしい。
施設活用のアイデア出しが出来るような前向きな住民説明会にしてほしい。
色んな方が色んな意見を持っているのだと感心したが、見当違いのことを言っている人もいて耳障りだった。具体的な整備内容が分かりにくく、説明会というより文句の言い合いのような感じで疲れた。様々な課題があると感じた。今日の説明会では反対意見が多いと思う。
質疑応答では、お気持ちを聞く必要はなく、質問は1人1問、本質的な質疑が出来るように質問者の発言時間を決めて進行してほしい。話の長い方や自分語りされる方に話を切り上げるなどの進进行を工夫してほしい。質問が長くて、簡潔に話せない人がいるので事前質問形式にするか、質問と意見を分けて時間を設定されてはどうか。くだらない意見を聞くために時間は延長すべきではない。
質問者の意見には私情や感情が強く、不安が先行している印象を受ける。反対意見ばかりに耳を傾けるべきではない。
説明会終了時間で打ち切られる。質疑応答の時間が不十分で形式的な説明会だと感じる。手を挙げた全員に発言の機会を与えるとともに、再質問できるようにしてほしい。ディスカッションもしたい。参加人数が多い開催日はもっと長く時間を取るべき。
本事業と南丹以北の地域振興の関係について質疑したかった。

質問に対する説明が不十分。今回も市民へのまともな回答はなく、建設ありきの説明会で、改善する気が感じられない。説明会はもっと丁寧かつ適時行うべき。
以前まで7回の説明会を開催されたという事でしたが、どのような告知であったのかは分かりませんでした。告知を徹底していただければと思います。
もっと早く説明会を開くべき。京都市と比較して説明会時間や回数、時期に差別感があり開催が少ない。交通問題を心配している方が沢山いる。
説明会はオンラインと現地のハイブリッド開催と録画公開を希望。人の集中や騒音、駅の混雑対策について、交通事業者との協議結果の説明会が必要。
交通関係等決定した際に必ず再度説明会を開催してほしい。土木事務所の道路対策の話が少なく残念。
20代・30代・40代のファミリー層向け限定の説明会をしてはどうか。
説明会は京都市域（西京区等）や長岡京市でも、最低小学校区単位で公民館・地域会館なども利用して開催してほしい。
向日市による説明会を開催してほしい。
向日市役所の担当者を登壇させるとともに、事業者も説明会にオブザーバー参加させるべき。前回もだが肝心の地元向日市の関係者が一切出席しないのはなぜなのか。京都府が向日市に圧力をかけているのか。
都合の悪い話は検討しますのみ。将来のことは若い人が考えていくべきであり、50年後生きていない者ばかり壇上させても仕方ない。利権を疑ってしまう。
丁寧な説明、質問に対する丁寧な回答に感謝。今後もこれまで以上に丁寧に説明会を開催してほしい。
前半30分の事業内容の説明は文章を読んでいるだけのようには思えた。敷地内の概要と近隣地との境界のみの説明。今回の説明会の開催目的は何だったのか。
利点の説明は十分理解できるものだったが、今回の説明会にはイメージ図の基になる設計図があるはずなので、平面図なども出ると期待していた。出来るだけオープンにした資料配布や説明会が必要と考える。
説明会の担当者は自分の生活圏でないため真剣さがなく、対策も他人事に感じる。登壇している説明者は、一度駅から競輪場まで歩いてみたかどうか。
アリーナ西側への道路整備状況や居住環境への影響についても説明してほしい。
道路の整備の説明の際には指差し棒が必要。
昨年の資料は新入社員が作成したようで残念な内容だったが、今回は見やすく資料のレベルは良くなった。
資料（p7⑤、p13③）の文字が小さく見づらいため、次回は文字を大きくしてほしい。今回の説明会は昨年聴取した意見を反映せず説明が不十分。写真や図を用いた資料で分かりやすく理解が深まったが、スライドの7頁は小さすぎて見えなかったのが残念だった。

今回の説明会では、安心できなかった。不安でいっぱいなので、今後も進捗状況などの説明会を開催してほしい。
阪急東向日駅とJR向日町駅の乗降時の集中混雑が予想される。駅のキャパシティについて、対策内容を提示してほしい。
向日駅前の混雑が不安であり、阪急東向日駅の建替えを含めて、JRや阪急の駅周辺は再開発してほしい。
阪急東向日駅の高架（開催日には特急・急行の停車）は不可欠。
阪急バスは増便しないのか。
西向日駅周辺は、一種住宅地域であり建築できる建物も限定されるため、規制緩和しなければアリーナ整備にも少なからず影響するのでは。
府の事業であるため全府民の事を考えて有益な事業にしてほしい。
アリーナ設置には賛成だが、アリーナ設置に伴う向日市への経済波及効果の詳細を明確に公開してほしい。問題はこの計画が地域と今後の市政にどのような良い影響をもたらすか。向日市の金銭面でのメリットとして固定資産税以外に直接的に支払われるお金はあるのか。周辺施設の納税額増など、間接的なものは除いて教えてほしい。
この再整備により住民税の増税が求められるのではないか。
共産党を中心に反対意見があるが、向日市にとって都市整備の面からも大変良い事業なので、積極的かつ勇気をもって推進してほしい。事業自体には賛成なので、反対する方に負けずに頑張って事業を推進してほしい。
千載一遇の発展へのチャンスであり、是非完成させてほしい。全面的に応援しています。向日市に整備されるので、入場券・市民割引や優待・招待などの形で向日市民に還元される明確な地域メリットを打ち出してほしい。
向日市は住宅が増えても魅力的な施設が少ないため、競輪場とアリーナの一体整備が地域の活性化につながることを望んでいる。新しい施設で人の流れや町が変わり、雇用も生まれる点を評価している。
小さな街には賑わいを呼ぶ取組が必要。よりよい町づくりの原点になるよう、向日市の活性化につながる施設にしてほしい。
今後向日市を盛り上げて行くためには大胆な改革が必要なので、これを機に向日市が益々発展し、いい町になることを期待している。
子どもたちが市に誇りをもって成長し、また向日市に戻ってきてもらえるような明るい向日市・住みやすい向日市に向けて取り組んでほしい。
これからの20代、30代の若い人が必要ならば整備しても良いと思う。一つずつ解決しながら、若い世代に有効な施設として期待している。
周辺にお店もないので来場者は食べ物やお土産を向日市では買わずに直ぐ帰ると思う。
道路整備や各駅からのアクセスのしやすさを追及することで、各駅周辺の賑わいに繋がるのでは。シャトルバスで西側に迂回するのは良案だが、発着はJR向日町駅または阪急東向日駅として駅周辺の活性化を図ってほしい。

向日町⇄東向日⇄アリーナの間に自動運転車両を導入するなど、利便性、安全性、SDG s モデル地区として整備検討してほしい。これを契機に都市基盤整備を進めてほしい。自転車に特化した施設にすべきで都市計画の一部として考えるべき。避難所連携を含めたインフラの長期的なビジョンを策定してほしい。
一番の利用者は京都ハンナリーズだと思うが、向日市内での知名度があまりにも無さすぎ。
アリーナが出来ることで京都ハンナリーズが憎まれることにはなってほしくない。
地元の産学育成に府市はもっと力を入れるべき。これまでほとんど振興策がされていないことを反省してもらいたい。
予算は府立大の建て替えに使ってほしい。
子どもの遊び場の設置は喜ばしい一方、向日市としても遊べるスペースの確保に取り組んでほしい。
向日市祭りは復活してほしい。
向日市観光資源との連携について検討してほしい。